

## 第12回黒潮町人権教育研究大会

「差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障する教育を確立しよう」と題し、8月20日(日)、「第12回黒潮町人権教育研究大会」が開催されました。

同大会は、黒潮町人権教育研究協議会、黒潮町教育委員会、黒潮町教育研究会の合同主催で開催され、午前中はふるさと総合センターで講演会、午後は各会場に分かれて分科会が行われました。

午前の部では、社会福祉法人岡山ライトハウスの竹内昌彦理事長を講師に迎え、全盲という障害を持つ子どもやその家族、教育について講演が行われました。



白杖を用い説明する竹内さん

竹内さんは、「親が元気でいれば、たとえ障害を持つ子どもでも元気でいられる。優しい目と優しい心を持つて、一人ひとりが自分の幸せの1%を障がい者へ分け与えてほしい。黒潮町が優しさで溢れるまちになれば」と、周囲の人から受けた多くの愛情について言及しながら、人権教育の在り方について講演しました。

また午後の部では、5つの分科会が各会場で行われ、代表者により人権に関する報告がありました。各分科会ではそれぞれテーマに沿ったレポートを報告者が発表し、その後参加者から疑問や意見が挙がりました。また、レポートに関する意見だけでなく、人権教育全般についての意見もあり、黒潮町が進める今後の人権教育について再考する機会となりました。



分科会の様子

## プロによるゴルフ教室

土佐ユートピアアクトリークラブで9月10日(日)、プロ17年目の八木敦士さん(34)によるゴルフ教室が開催され、一般ゴルファー12名が参加しました。

プロを囲んでの昼食の後、参加者は約1時間のショット練習を行い、バター練習の後は、ハーフラウンドを回りました。

ショット教室では、プロによるフォームやスイングの細かな指導が行われ、参加者の秋森勇人さんは「普段気付かない点も教わり、上達が見込めそうです」などヒントを得た様子でした。

また、指導を受けた植田雄二さんは「クラブの向きなど、プロと自分の思っていたイメージがまるで違ったが、その通りやってみたら飛距離が伸び、方向性が正確になった」など、参加者らはそれぞれに成果を得た様子でした。



熱心にプレーする参加者

## 大方生華園に四国道路ふれあい協議会長より感謝状が贈られました

長年にわたる道路愛護ボランティア活動に感謝して、

町内で道路愛護のボランティア活動を約8年にわたり実施している「大方生華園」が、その功績により「平成29年度四国道路ふれあい協議会長表彰」を受賞し、8月16日(水)、山田敬二中村河川国道事務所長より大方生華園の受賞者代表に感謝状が伝達されました。



生華園の皆さん



感謝状の伝達